

市P連おおた

第21号

【発行所】太田市小中特別支援学校 PTA連合会
 【発行責任者】岡田 将彰
 【編集者】平成28年度市P連広報担当
 小林 重信 (沢野小) ・ 成塚 敬至 (南中)
 若狭 大介 (太田南小) ・ 遠藤 芳輝 (沢野中央小)
 寅谷 利恵子 (尾島小) ・ 木山 真伸 (世良田小)
 岡田 将彰 (尾島中) ・ 中島 聖司 (太田中)
 新島 康弘 (太田養護)
 【印刷所】東京広告株式会社

『ふれあいと対話が育てる家族の絆』 〜広げよう地域の輪〜



太田市小中特別支援学校PTA連合会

会長 岡田 将彰
(尾島中学校)

今年度、市P連会長を務めることになりました岡田将彰です。単位PTAは南ブロックの尾島中学校になります。一年間よろしくお願ひ致します。今年の市P連の活動テーマは「ふれあいと対話が育てる家族の絆」〜広げよう地域の輪〜と決めさせていただきました。さて、子どもにとっては、良くも悪くも家庭が子どもの世界のすべてであると言っても過言ではないかと思えます。人には自分が育った家庭の規範が染みつくものであります。それぞれの家庭で育ち、それぞれの家庭をモデルとして育ってきたのだからだと思います。

家族なら何もなくても人間関係は深まるものでしょうか。私は否だと考えます。家族であるために、さまざまな問題が起りまますが、他人の話であれば聴ける話でも、家族の話となるとなかなか腰を落ち着かせて聴けないということはありませんか。だからこそ、家族での対話の時間は大切なのです。自分とは考えが違ってもその気持ちを支持して、否定はしないこと・人と比べないこと・自分の価値観を押しつけないなど、自分の心にゆとりを持って家族とたくさんのお話をし、信頼関係を築き、絆を深めて行きながら地域の

第六十四回 日本PTA全国研究大会 徳島うずしお大会に参加して

副会長 磯崎 一博

八月二十日(土)、二十一日(日)の二日間にわたり、第六十四回日本PTA全国研究大会徳島うずしお大会に参加させていただきました。本大会は開催までに色々問題があったようですが、その様なことを全く感じさせることなく盛大かつ有意義な大会でありました。私自身が過去に市Pの会員研



修会のスタッフとして活動した時期があることも関連してか、スタッフの動きや、研修会参加者の動きを敏感に感じとってしまいましたが、会場周辺の案内から始まり、駐車場、受付、会場内とスタッフ皆が活き活きと動き回っていました。

さて初日は子ども達の第九合唱から始まりました。たまたま前日の昼食時に出会った三つ子の小学一年生の女の子が「明日歌うから見に来てね」と開演前から徳島のやる気を感じさせる一言がありました。基調講演は女優であり議員さんの奥様でもある水野真紀氏でした。女優という仕事柄、大変多くの人と触れ合う機会の有る方

資源を有効に活用したりして子育てを楽しみながらぜひ地域の輪を広げていただけたらと願っております。

私も四人の子どもの成長と共に十五年間にわたり小・中学校のPTA活動にたずさわらせていただき、今年度最後の年になります。が家族の絆が深まるPTA活動にしていけたら幸いです。

大輪の花を咲かせよう！ 一輪車で育む心と身体

世良田小の一輪車は、体力作りの一環として昭和六十二年頃から取り入れられている活動です。現在では五、六年生が運動会での一つの演目として披露しており、毎年、組体操と並んで運動会を盛り上げる花形の演目になっています。

※インタビュ参加者：六年生(斎藤君・楠谷君・木村さん)、大島校長先生、室田先生(六年担任・体育主任)、市P連岡田会長、木山PTA会長

話はまさに研究課題通りでコミュニケーションがいかにか大切であるか、人と人との結びつきとはどういふものであるかを改めて感じることの出来る講演でした。その後パネルディスカッションでは、元中学校教諭で、大学院教授の阪根氏をコーディネーターとして迎え、現状のインターネットに囲まれた世界で子ども達をどう導いていくかという、中々考えさせられる問題を提起していただきました。

最終日は漫画家でもある竹宮恵子氏の講演でした。子ども達、そして親がどう自立していくかという講演で、こちらも実体験を元に貴重なお話を聞くことができました。

今回の研究大会を通じて得た知識、経験を今後のPTA活動に役立て、子ども達の為になる活動を推進していきたいと考えます。

公益社団法人日本PTA全国協議会主催 三行詩の市P連推薦作品三点

小学校の部
家のこと みんなでするのが あたりまえ

中学校の部
あいさつで 皆と交わす 朝習慣

一般の部
※この作品は県の代表に選出されました。
子育ては 親育て 一緒にゆっくりに成長しよう

強戸小三年 飯山 絆奈姫さん
北中二年 小平 希輝さん
木田南小保護者 前嶋 陽子さん



インタビューに参加してくれた6年生

世良田小学校で一輪車を取り入れたきっかけや経緯を教えてください。

大島校長先生 本校は、昭和六十一年〜六十三年に県教委より指定を受けた体力づくり実践推進校の取り組みの中で、昭和六十二年の時に一輪車を大量購入しました。一輪車はバランスを鍛えたり体幹トレーニングになるといふので、当時の太田市内の各小学校に広まりました。現在も各小学校に一輪車はありますが、運動会で一輪車を披露しているのは世良田小だけです。これが本校の一番誇れるところかなと思います。台数も百台あり、これも児童数(およそ二百名)あたりの台数にするとかかなり多いと思います。

室田先生 乗れない子は乗れる子のお手伝いをしたり、またもう少して乗れそうという子には周りの子が手伝ってあげて乗る等、みんなで助け合うという姿勢が見られるので、クラス作りに役立っていると思います。

岡田会長 一輪車の競技に全員が参加してると感じますよね？

木山PTA会長 そうそう、乗れないからダメ、ではなくて乗れる子のサポートをしてあげるっていう助け合いの姿勢は保護者の視点から見てもいいですよ。

岡田会長 (子供達に) 太田市内の運動会で世良田小だけが、一輪車を披露するって知ってた？

六年生 知らなかった！

大島校長先生 もし太田市内で一輪車の競技があったら、世良田小は絶対優勝だよ。

六年生 すごーい！

岡田会長 運動会に向けて意気込みをどうぞ！

六年生 斎藤君 転ばないように頑張る！

六年生 楠谷君 いろいろな技を



運動会の練習で頑張る子供達

乗体幹、姿勢が良くなるんです。

お知らせ

太田市小中特別支援学校会員研修会
文部科学省委託事業
「ネットモラルキャラバン隊」
2016年11月20日(日)
太田市新田文化会館エアリスホール
13:00~16:00(12:30受付)

主催：太田市小中特別支援学校PTA連合会
共催：安心ネットづくり促進協議会
後援：群馬県PTA連合会 太田市教育委員会

毎月第1日曜日は
おおた
家庭の日

家族みんなで語り合い、
楽しみあい、協力しあって
家族のきずなを深め、
あたたかい家庭を育みましょう

尾島小ねぶた 元氣に出陣

毎年八月十四・十五日、尾島地区ではねぶた祭りが盛大に開催されます。尾島小学校では、平成十四年度より毎年このねぶた祭りに参加しています。本校五年生が「総合」の授業でねぶたを製作し、祭りだねぶたを運行します。まず、ねぶたに描く絵を決め、そ



の絵を縦二・六メートル、横二・六メートルの大きなねぶたに描き移します。次に墨入れと蠟塗り、そして色を入れます。色鮮やかに色塗りをした後は、仕上げの絵張りとなります。こうして、たくさん時間と愛情をかけてねぶたが完成するので、この製作は、毎年太田新田商工会青年部の方々の指導の下、行っています。今年も多くの青年部の皆様の御協力により立派なねぶたを完成させる事が出来ました。本番当日には、「ヤーヤードー」の元氣な掛け声と共に、尾島小学校五年生によるねぶたが尾島の夜空に華やかに浮かびあがりました。

鏡絵担当 久保田さん
私は、みんなで迫力のあるねぶたにしたかったので、鏡絵は男らしい、武将の絵にしました。総合の時間に、友達と協力してねぶたを作り、できあがった時にはとてもうれしかったです。ねぶた祭りが楽しみです。

見送り絵担当 中田さん
私は、ねぶたの「見送り絵」にえらばれて、うれしい気持ちと信じられない気持ちでいっぱいでした。商工会の人に教えられ、ねぶた本番ではみんなで一生懸命がんばったのでとても楽しくいい思い出が作れました。

袖絵担当 寿盛さん
ねぶたの絵を描いて工夫した点は、金魚が龍になるところです。金魚が龍になりたいという「力強く熱い思い」を表現したかったので絵にも力強さをこめて、大きく描きました。五年生の仲間と協力できて良かったです。

鏡絵担当 久保田さん
私は、みんなで迫力のあるねぶたにしたかったので、鏡絵は男らしい、武将の絵にしました。総合の時間に、友達と協力してねぶたを作り、できあがった時にはとてもうれしかったです。ねぶた祭りが楽しみです。

見送り絵担当 中田さん
私は、ねぶたの「見送り絵」にえらばれて、うれしい気持ちと信じられない気持ちでいっぱいでした。商工会の人に教えられ、ねぶた本番ではみんなで一生懸命がんばったのでとても楽しくいい思い出が作れました。

袖絵担当 寿盛さん
ねぶたの絵を描いて工夫した点は、金魚が龍になるところです。金魚が龍になりたいという「力強く熱い思い」を表現したかったので絵にも力強さをこめて、大きく描きました。五年生の仲間と協力できて良かったです。

地域と一体となった親子資源回収

八月二十八日(日)、毎年恒例の尾島中学校「親子資源回収」が行われました。当日は台風10号の影響もあり小雨模様でしたが、活動にはほどよい天候でした。尾島中学校の資源回収は学校と保護者だけでなく、地域にも協力してもらいながら大規模で行われており、回収された資源の量を見

て他校から異動されてきた先生方は大変驚かれるそうです。これは地域の方々の「中学校の生徒の助けになれば」という思いの大きさのあらわれと言っていると思います。また、今年から冠に「親子」をつけての活動となりました。親子とともに汗を流して活動し、中学時代の子供との思い出のひとつとしてほしいという願いが込められています。当日はこの名前にふさわしく、親子で協力して回収車で地域を回ったり、コンテナ設置場所で積み荷を降ろしてコンテナへ運び入れたりする姿がたくさん見られました。

子育てが終わって一人の地域住民となっても協力したいと思えるような、本校が自慢できるPTA活動のひとつです。



生徒が創る体育大会



六月十五日、太田中の体育大会が同校のグラウンドで行われました。太田中の体育大会は、目標やスローガン、競技種目や競技の方法まですべてを生徒たちが企画するとともに、当日の運営や進行も行います。各学年のクラスごとに赤団、青団、黄団に分かれ一年生から三年生が1チームになり団対抗で競います。今年度は三年生の意見を取り入れて競技内容を決めました。今年から取り入れた障害物リレー、騎馬戦、棒引きをはじめ、学年や男女によって走る距離が違うスウェーデンリレー、部活対抗リレーや各団の精鋭達で競う選抜リレー、恒例となった綱引き



などで競い合いました。部活対抗リレーでは、運動部や文化部の代表選手がユニフォームやジャージで登場し各都で考えたパフォーマンスをしながら走り、大会を大いに盛り上げました。また、綱引きでは優勝した団とPTAチームでエキシビジョンマッチを行い、先手方や応援に来た保護者も大会を楽しみました。競技中は各団の団長、副団長を中心に熱のこもった応援が繰り返られ大声援の中それぞれの競技が繰り広げられました。中学生生活最後の体育大会になった三年生は下級生たちの先頭に立ち各団をよくまとめており、とても頼もしく見えました。大会終了後は各団で団陣を組み、互いの健闘を称え合いました。今年で五回目となる太田中の体育大会、年々内容も充実し、やる方も見る方も楽しめるように生徒達が工夫をしながら創り上げる行事です。来年もどんな体育大会になるのか楽しみです。

沢野小学校 新校舎の特徴

本校は太田市の南西部に位置し、明治七年に沢野村の小学校四校が合併したのが始まりで、今年で百四十四年目を迎えました。生徒数は七六四名です。本校は、平成二十五年に新校舎に生まれ変わりました。特徴がいくつかあるので紹介します。一番の特徴は校舎の形が楕円形の造りで、一続きにつながる廊下を歩くと、校舎内を一回りする事が出来ます。これを建築用語ではコリドールと呼びます。まるみを帯びた廊下は、ゆったりとしたカーブで死角がなく、広々とした廊下を多目的スペースとし、様々な学習活動に利用しています。楕円形の校舎の真ん中に空間があり、このスペースはみんなのひろばと呼ばれています。ぐるりと一周校舎に囲まれて安全な空間では、たてわり活動を行ったり、昼休みには児童の遊び場となっています。

校舎の南側一階から三階が階段状のセットバックに造られています。そのため、太陽の光を直接取り込むことで、暖かく明るい教室で授業を受けられます。また三階は、ハイサイドライトを設けたこ

とで、教室の奥まで光が届きやすく、風通しも良くなっています。本校の限られた空間を最大限に利用するために、給食室とプールが一体となった複合施設があります。建物一階は、給食室と更衣室やポンプ室があり、屋上部分にプールが設置されています。一階と屋上部分の間にはスペースを設け配水管を通すことで、プールからの水漏れを防ぐという工夫がされています。このように本校は、児童が安全かつ快適に過ごせるように、様々な工夫がされた特徴的な校舎に生まれ変わりました。

皆さんこんにちは。今年度の市P連広報誌作成担当の南ブロックです。広報誌作成の担当となり、より多くの情報や日頃の活動をご紹介し、多くの皆さんに知って頂きたいという想いで、広報誌作成に携わらせて頂きました。ご協力頂いた皆様、誠にありがとうございました。今後ももっと皆さんの活動や情報を皆さんに提供していきたいと思っております。これからも皆さんの安全・安心の確保と子ども達が生き生きと成長できるようにPTA活動に協力させて頂きたいと思っております。



【編集後記】
沢野小PTA会長 小林 重信